

『平和の祈り』

おほけなく うき世の民に おほふかな
わが立つそまに すみぞめの袖

前大僧正 慈円

〔現代訳〕

身の程をわきまえないと言われても仕方がないが、つらいこの世に生きる人々に仏の加護がありますように祈り救いたい。比叡山延暦寺で住み始めた私は。

慈円も NHK 大河ドラマ『鎌倉殿の13人』に登場しています。

後鳥羽上皇の^{しんたいごじ}身体護持の^{きとう}祈禱をする僧です。摂関家出身とあって、^{てんだいぎす}天台座主、さらに最高位の大僧正につきました。政治にも関わり、歴史の中にある道理を説いた『愚管抄』を著しました。

公武協調の3代鎌倉殿・実朝が暗殺されて後、後鳥羽上皇は討幕に傾きます。慈円は承久の乱を止めようとしませんが叶わず、後鳥羽上皇から離れ、乱後はまた朝廷と幕府のための祈禱を再開し、無数の戦死者や罪なくして殺された人々の^{とくだつ}得脱を祈ります。また、この頃には、地震、^{ききん}飢饉、はしか・^{ほうそう}疱瘡などの疫病で大勢が亡くなりました。

戦争やパンデミックに苦しむ現代とも似ている気がします。

新しい年が平和な世になりますように。

山陽小野田かるた協会 久保 久美子